

肥前さが幕末維新博覧会



徴古館特別展

幕末明治の鍋島家

大名から侯爵へ



〔会期〕平成30年3月17日(土) ≡ 平成31年1月14日(月祝)

〔料金〕400円(高校生以下は無料)

〔時間〕9時30分～18時

〔休館日〕年末年始(12月29日～1月3日)

※料金・開館時間・休館日が通常とは異なります。

1868 2018

肥前さが幕末維新博覧会

2018.3.17 2019.1.14

鍋島家により創設された 県内初の博物館。

徴古館



ちようこかん なおみつ
徴古館は、12代鍋島直映公により昭和2年(1927)に創設された佐賀県内初の博物館です。開館当初は肥前関係の歴史資料を陳列し、今日でいう県立博物館にあたる役割を果たしました。現在も玄関には直映公による「徴古館記」が掲げられています。「古に徴し、今に考え」とあるように、今をよりよく生きるために、郷土の歴史を知ること(温故知新)を目的としていました。昭和15年に財団法人鍋島報効会が設立されて以降は同会が運営にあたりましたが、大戦の影響により昭和20年に閉館を余儀なくされました。

戦後はNHK佐賀放送局などが利用したのち、県立博物館が開館する昭和45年まで県文化館として展示活動が行われました。平成9年に建物が国の登録有形文化財となり、現在のように佐賀藩主・侯爵鍋島家に伝来した品々をご紹介します博物館として再開したのは平成10年のことです。平成30年で、20周年を迎えました。

「幕末明治の鍋島家-大名から侯爵へ」の会期中は、開館時間・休館日が通常と異なりますのでご注意ください。



徴古館

公益財団法人 鍋島報効会

〒840-0831 佐賀市松原2-5-22

TEL・FAX:0952-23-4200

開館時間 / 9時30分～18時

休 休 年未年始(12月29日～1月3日)

http://www.nabeshima.or.jp E-mail info@nabeshima.or.jp

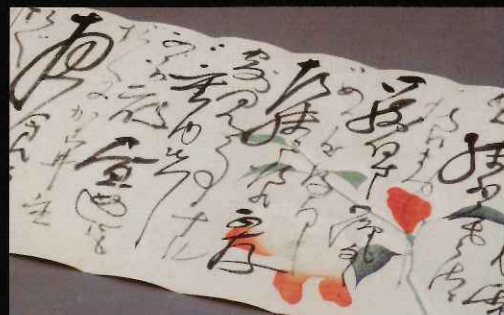
幕末明治の鍋島家 — 大名から侯爵へ

展覧会期間中の常時展示

特別展期間中は4期にわけて一部展示替えを行います、この面に掲載している資料は、会期中いつでもご覧いただけます。

佐賀藩は鍋島直茂公を藩祖、息子の勝茂公を初代藩主として成立し、約260年間を通じ鍋島家11代の歴代藩主により治められ、その歴史性から質実剛健な気風が培われました。幕末の10代藩主鍋島直正公は世界に眼をむける一方で、佐賀藩の歴史的な成り立ちや特有の気風を「鍋島風」と呼んで極めて重視し、これが雄藩に成長する上で大きな原動力のひとつとなりました。

幼年期の直正公は藩祖直茂公の教訓を学ぶことを毎朝の日課とし、藩主就任後は直茂公が重んじた「藩内の一味同心(一致団結)」の実現を目指しました。また佐賀藩の成り立ちを「国学」として重視し、藩士としての生き方を説いた「葉隠」は江戸時代中期に編まれた書物ですが、幕末の直正公も家臣と共に学んでいました。



直正から愛娘への手紙

貫姫宛て鍋島直正書翰
江戸時代後期 鍋島直正筆
※随時展示替え

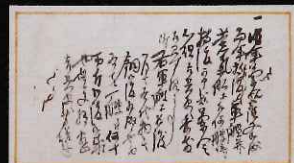
直正は長女貫姫(みつひめ)が嫁いだ後も約15年間にわたり文通を続けました。その自筆の手紙には「名君」のイメージとは異なる、娘を愛する父親としての姿がうかがえます。



イタリア公使 鍋島直大

鍋島直大像 百武兼行筆
明治15年(1882)

ローマに随行した旧佐賀藩士百武兼行が描いた公使鍋島直大の肖像画。日本公使館での舞踏会でイタリア皇帝・皇后の肖像とともに掲げられ、西洋人の目を驚かせた油彩画です。



直正から側近への「極密」の指示

徳永傳之助宛て鍋島直正書状
安政2年(1855)頃 鍋島直正筆
※随時展示替え

直正が側近の藩士に宛てた自筆の書状。この書状からしか分からない「極密」の指示内容を知ることができます。



モノを通じて 直正が見た世界

内外収集標本箱
江戸時代後期 ※随時展示替え

直正が藩士に命じて収集させたと思われる国内外の動物や植物などの標本箱。貪欲に集めた物や情報から世



1. 蒸気車雛形
 2. 蒸気船雛形(外輪船)
 3. 蒸気船雛形(スクルー-船)
- 安政2年(1855)頃 佐賀藩精練方製 佐賀県指定重要文化財
長崎管轄に必要な蒸気機関研究のため、佐賀藩内で製作された蒸気機関の雛形。単なる模倣とは異なり実際に駆動する構造です。その成果が、やがて蒸気船の運用や実用蒸気船の初の国産化に繋がります。

直正も見た これがオリジナル



光射す花瓶

杏葉紋透し花瓶(含珠焼)
樋口治実作 明治25年(1892)

鶴の翼と魚の甲羅に杏葉紋(鍋島家の家紋)を巧みに図案化し組み込んだ花瓶。鶴は素地を薄く残して彫る含珠焼という技法により、光が透き通ります。



明治天皇の鍋島邸行幸

菊御紋付牡丹孔雀象嵌銀製花瓶
菊御紋鳳凰御盃
シャンパングラス/菊御紋付銀盃
明治25年(1892) 御下賜

明治25年(1892)鍋島邸西洋館の落成を機に明治天皇が行幸された際、直大に下賜された記念品。シャンパングラスは陛下から直大に直接手渡しされました。



秀吉から直茂への朱印状

豊臣秀吉朱印状
天正年間~慶長年間 ※随時展示替え

豊臣秀吉や地元家臣団からの信望を厚くした鍋島直茂は佐賀を牽引する存在となりました。秀吉からの朱印状を入れ替えながらご紹介します。



初代藩主の大円鏡

杏葉紋付円鏡 江戸時代前期
初代藩主鍋島勝茂所用

堂々たる大きさが藩主の御道具にふさわしい、初代藩主鍋島勝茂が用いた鏡。鏡背には古様の花杏葉紋が打ち出されています。



新指定の重要文化財

里帰り展示

1. 色絵樟文輪花大皿
 2. 色絵山水竹鳥文輪花大皿
 3. 色絵茶碗
- 江戸時代前期 初代藩主鍋島勝茂伝来

- 1・2は国指定重要文化財
- 3は佐賀県指定重要文化財

平成30年3月、工芸品としては九州でただ一つ、新たに国から重要文化財の指定を受けた「色絵樟文輪花大皿」。初代藩主鍋島勝茂の時代に藩内で制作された大皿です。指定後としては数百年の初お披露目となります。平成25年に指定された色絵山水竹鳥文輪花大皿なども同時に展示します。

慶事の小箱

ボンボニエール
明治時代~昭和初期 ※随時展示替え

ボンボニエールは、皇族や華族の間で慶事の引出物として添えられた小箱。100点を越



直正も学んだ葉隠

葉隠(山本本) 享保元年(1716)成立
山本常朝口述・田代陣基編
佐賀藩御什物方伝来

江戸時代を代表する武士道論「葉隠」では、佐賀藩成立期の歴史を「国学」として重視。幕末には直正も学び、思想形成に影響を与えました。

直正も見た初代藩主の具足



青漆塗萌葉系威二枚胴具足
江戸時代前期
初代藩主鍋島勝茂所用
佐賀県指定重要文化財

佐賀藩歴代藩主のものとして現存唯一の具足。幕末にこの具足を見た直正は「葉隠」を手に、慶事御什物

幕末明治の鍋島家 — 大名から侯爵へ

佐賀藩を治める大名から、皇室を支える華族(侯爵)へ。
鍋島家伝来品でたどる、幕末・明治の鍋島家御一家の歴史。

徴古館では、肥前さが幕末維新博覧会の特別展として、旧佐賀藩主・侯爵鍋島家に伝来した品々を通じ、幕末～明治における鍋島家の歴史をご紹介します「幕末明治の鍋島家 — 大名から侯爵へ」展を開催しています。会期中は4期にわけて展示替えを行います。

10代藩主鍋島直正公(閑叟)は、佐賀藩の成り立ちや特有の気風をとりわけ重んじるとともに、いち早く世界を眼差し、軍事や医療などの面で必要な西洋の技術を導入し、佐賀藩を雄藩へと導きました。父の思想を引き継いだ11代鍋島直大公は、イギリス留学やイタリア公使を経験し、帰国後は侯爵を授かり、明治天皇の側近として活躍しました。時代は、江戸から明治へ。世界を見ていた時代から、世界とともに歩む時代へ。

鍋島家は、佐賀藩を治める大名から皇室を支える侯爵へ。時代と立場が変わるとき、鍋島家は何を拠り所としたのでしょうか。本展では直正公・直大公の大名や侯爵としての務めのほか、奥方や娘、息子たちも含めた大名家としての明治維新の様相をたどります。150年を機に振り返ることで、常に変化の中で生きる私たちにとって、暮らしの手掛りを感じ取って頂ければ幸いです。



10代藩主
鍋島直正
(閑叟)
1814-1871

11代藩主 侯爵
鍋島直大
1846-1921

その眼はひろく世界を、
未来の日本をみつめていた。
受け継がれた
伝統の家風と先進の志。

展示1期

平成30年
4/16日

平成30年
6/15日



14年ぶりの公開
鍋島直正肖像写真
安政6年(1859)佐賀藩士川崎道民撮影
※撮影時原寸
佐賀藩医の川崎道民が、安政6年(1859)に撮影した46歳の直正。日本人撮影の肖像としては高津奇形の銀板写真に次ぐ古さです。オリジナルの一般公開は14年ぶり。現存の6枚を順次展示替えします。

国産最古級のカメラ
湿板カメラ 江戸時代後期
最も古い時期の国産品と推測される湿板カメラ。藩内で写真の研究も進んでいた精練方で使用された可能性があります。

直正自筆の書
「西洋世界を一変させたい」
鍋島直正詩書(次佐政宗征南詩集)
嘉永3年(1850)作詩 嘉永～安政頃書
「私はキリスト教世界を一変させ日本の威風を広めたい」という直正の思想を象徴する自筆の書。銀紙書風の56文字に、海外雄飛の想いが感じられます。



初公開 世界の旗図鑑
万国旗印 江戸時代後期
西洋から中東・アジアにまで及ぶ世界の旗図鑑。佐賀藩が担った長崎警備では、こうした知識が求められたものと思われる。

明治天皇の鍋島邸行幸
明治天皇行幸図
昭和10年(1935)秀島英磨筆 鍋島榮子伝来
明治25年(1892)7月9日、東京永田町鍋島邸の落成記念として明治天皇ご来臨の様子。翌日には皇后も行幸されました。

第1期展示
平成30年4月16日(日)～6月15日(日)

展示2期

平成30年
6/16日

平成30年
8/24日



和洋折衷 直大の軍服
レクシオン羽織・袴
江戸時代末期 鍋島直大所用
西洋の軍服と日本の袴の折衷洋式。直大が着用した軍服です。幕末にフランス式の軍事訓練が伝わった時期に用いられました。

佐賀藩の上野戦争
佐賀藩兵上野警備隊砲撃之図
昭和時代初期 陣内松麿筆
戊辰戦争の一幕、江戸上野での戦い。直正は内戦への強大な武器の使用には消極的でしたが、佐賀藩の兵器が早期終結を実現させました。

直正への勅書
蝦夷開拓警務勅書
明治2年(1868)6月4日 鍋島直正伝来
明治天皇が「蝦夷威」に関わる蝦夷地開拓の警務を直正に命じた勅書。西の長崎警備から北の蝦夷地へ、国防を重視する直正はこの任務を自ら志願しました。



明治天皇の側近 鍋島直大
立皇太子御式切欠丸伝進之図 明治22年(1889)
嘉仁親王(10歳)のちの大正天皇)を皇太子に立てる行事で、明治天皇の側に式部長を務めた鍋島直大が描かれています。直大は陛下の側近として厚い信任を受けていました。

代々譲られた煙草盆
薬種製獅子牡丹丹煙草盆
江戸時代
刻み煙草の喫煙具一式を納める筆筒形の煙草盆。直正の遺品として継室筆姫に譲られ、さらに直大、榮子へと代々伝えられました。



日赤篤志看護婦人会 会長 鍋島榮子
メイドドレス/篤志看護婦人会看護服・制服
明治時代～大正時代 鍋島榮子所用
日本赤十字社の創設者は旧佐賀藩士佐野常民。鍋島榮子は侯爵夫人として日赤の篤志看護婦人会の会長を約50年にわたり務めました。

第2期展示
平成30年6月16日(日)～8月24日(日)

展示3期

平成30年
8/25日

平成30年
11/5日



鍋島邸で使用 有田製の洋食器
色絵草花文洋食器
明治2年～20年代 有田大傳筆・平林伊平製
鍋島邸で使用されていた洋食器。種類の豊富さや上絵付けの斬新さは100年以上の時を感じさせません。

侯爵鍋島家の誕生
爵記
明治17年(1884)7月7日
鍋島直大伝来
36万石佐賀藩の大名から、皇室を支える侯爵へ。明治17年(1884)7月7日、鍋島直大に侯爵の爵位が授けられました。



明治天皇御下賜金で購入
梨子地箱磚繪文会/福箱
梨子地箱水磨繪料紙箱
明治時代中期 鍋島直大伝来
明治25年(1892)東京永田町鍋島邸への明治天皇行幸時の御下賜金を水世に伝えるため、直大が購入した文房具。

国内唯一とされる
小袖地のドレス
バツルス・ドレス
明治時代中期 日本製 鍋島榮子所用
武家女性の小袖の生地を、欧米で流行していたバツルスドレスに仕立てた、類例のない榮子夫人のドレス。



第3期展示
平成30年8月25日(日)～11月5日(日)

展示4期

平成30年
11/6日

平成31年
1/14日



夫人の嫁入り道具
黒漆塗妻紋付行器
江戸時代後期 健徳所用
直正の正室悠姫嫁後、継室として嫁いだ華姫の婚礼調度と思われる。食物を入れるための行器(ほかい)。田安徳川家から嫁いだため妻紋があしらわれています。

直正の長女貴姫の手しごと
紅梅に藤模様紙拵
江戸時代後期～大正時代 貴姫作
懐紙などを挟んで携帯するための紙拵。異なる質感の布を用い、鷹の角筈や梅花の華やかさが見事に表されています。直正の長女貴姫の手細工品です。

夫人の雅なあそび
村梨子地文様紋嵌草唐草舞盤
沈香道具
江戸時代後期 10代 鍋島直正夫人所用
香りを楽しむための香木を細かく割るための道具一式。器の上に残るノミ跡から、実際に使用されたことがわかります。直正正室の悠姫(徳川将軍家)または継室華姫(田安徳川家)の婚礼道具と考えられます。

佐賀県唯一の国宝
10年ぶり公開
健馬楽譜
平安時代中期(11世紀) 国宝
鍋島直大伝来
平安時代中期に書写された、古代宮廷歌謡のひとつ健馬楽(さいはら)の楽譜です。雅楽をつかさどる管内省式部卿長官を務めた直大により鍋島家にもたらされたと考えられます。

伊藤博文首相官邸での舞踏会服
仮装舞踏服
明治時代中期 鍋島直大・榮子所用
明治20年(1887)4月20日に伊藤博文首相官邸で催された大仮装舞踏会(ファンシーボール)で直大・榮子夫妻が着用した衣装。徴古館で18年ぶりの公開です。



第4期展示
平成30年11月6日(日)～平成31年1月14日(日)